

千葉県福祉型障害児入所施設設置候補者の選定について

千葉県袖ヶ浦福祉センター養育園の新規受入停止及び規模縮小等の影響を受けて、県内の福祉型障害児入所施設に入所ができない入所待機障害児（行動障害のある入所待機障害児を含む）を受け入れるため、民間の福祉型障害児入所施設の設置候補者を公募したところ、1団体から応募があった。

その提案内容を審査したところ、適正と認められたため、当該法人を設置候補者として選定した。

1 設置候補者

社会福祉法人高柳福祉会（柏市）

2 経緯

- （1）平成28年5月に募集要項を公表し、10月14日を応募期限としたところ、1団体（社会福祉法人高柳福祉会）から応募があった。
- （2）11月28日に、プレゼンテーション及び外部有識者意見聴取会を開催し、
 - ①応募団体によるプレゼンテーション及び質疑
 - ②外部有識者による評価（審査基準に基づく採点）及び意見聴取を行った。
- （3）12月20日に選定委員会を開催し、外部有識者意見聴取結果等を踏まえ、応募団体を設置候補者として選定した。

3 提案内容等

提案の 概要	<p>1 施設の設置目的を踏まえた運営方針</p> <p>(1) 施設の運営に係る基本的な考え方等</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「その人らしさを大切に」のもとに利用される方が人として尊厳を重んじ、生活向上を図るため最善を尽くす。2. 利用される方、家族、地域社会から信頼され、経営の透明性を確保し、健全な施設運営に務める。3. 単なる法令の遵守と最低基準を守るためだけではなく、優しい福祉サービスを提供する事業者とそのスタッフの行動指針としてその専門性を高めることに取り組みをする。 <p>(2) 保護者、地域住民、関係機関、袖ヶ浦福祉センター等との連携</p> <ol style="list-style-type: none">1. 児童相談所を中心として、市町村・施設を交えた入所調整会議を実施するとともに、退所後の自立支援に向けての自立支援会議を開催し、家族、本人の生きづらさをなくなるような計画づくりをする。2. 現在以上に入所施設としての地域との結びつきを大切にし、関係機関（特別支援学校、小中学校等）との連携により、障害児及び家族を支援する地域における拠点施設としての機能を持つようにしたい。 <p>2 利用者の権利擁護と安全確保</p> <ol style="list-style-type: none">1. 当法人障害者サービス部門で組織している虐待防止員会に障害児入所施設の職員も参加する。また権利擁護に関する法人内研修会に参加し、千葉県、柏市、千葉県知的障害者福祉協会の主催の権利擁護研修には積極的に参加し、スタッフの教育に務める。2. 苦情解決については、法人で苦情解決第三者委員に2名を任命しており、新たな施設では、苦情受付担当者、苦情解決責任者を置き、苦情解決に努める。3. 障害者サービス部門では、「らくらく連絡網」（全常勤職員の携帯電話等を登録）を使用して、職員間及び上司への情報共有を図っている。4. また、各事業所で月1回の職員・ケース会議を開催し、障害サービス部門の幹部職員は、毎週月曜日に定例会を開催し、情報の共有を図っている。5. 事故防止等については、各事業所から選出された者で危機管理委員会を組織し、事故発生時の病院や連絡先等、ヒヤリハット報告書及び事故報告書の情報を収集し、データにまとめ事故防止に努める。6. 些細なことであっても報告できるような環境をつくり、事故の不明な原因を無くし事故防止等に努める。7. 感染症対策については、(1) 感染源の排除、(2) 感染経路の遮断、(3) 抵抗力の向上（利用者の健康管理）を柱に計画を作成する。8. 防災等危機管理の体制については、(1) 防災計画の策定、(2) 施設内の安全化、(3) 緊急連絡、災害対応組織体制の構築、の3点を踏まえ、体制を構築する。
-----------	---

3 児童への支援の質の向上

1. 児童発達支援管理責任者を中心に障害児相談支援専門員と関係を密にし、本人・家族・支援者が混乱しないように障害の特性の理解、適切な支援方法を共有することに視点を置き、短期、長期（成人に向かっての）を立案し、実施する。
2. 児童の移行（卒園）については、就労支援（中学部、高等部等）と連携し、卒園後に引き続き成人期の福祉サービスを希望する方には、生活する場として当法人のわかたけホーム（グループホーム）や、日中活動の場としてわかたけ社会センター（就労移行、就労継続支援B型）及びたけのこ（生活介護、就労継続支援B型）があり、本人の希望と受入れ側が合致すれば、利用を考えていく。
3. 強度行動障害のある児童への支援計画については、「安心感を返していく」ことを考え、一貫した対応が可能なチーム体制を整え、危険や問題のない限りにおいては、本人の意思を尊重する支援をする。
4. 幼児や医療的ケアの必要な児童については、医療従事者等の協力のもとにしていく。
5. 被虐待児童等の心理的なケアの必要な児童に対しては、治療という考え方をベースに置き、安全で安定した生活環境を与え、安心感を育てることを基本にして関係機関の協力を求めている。
6. 建物設計に関しては、県内の既存施設を参考に以下のような施設とする。
 - ①入所児童の階段からの転落防止策として各ユニットは平屋建てとした。
 - ②居室等の壁については、自傷行為等に対応して、プラスターボード2重張り（自傷行為時にあえて破損することで利用者の怪我を最小限にする）の上、塗装仕上げとし、補修にも対応した。建築基準法、消防法等を考え各利用者にあった方法を随時考えていく（強度行動障害児対策）。
 - ③3つのユニットとし、個室対応とした。
 - ④居室等の天井の高さを通常より高めの2.7m程度とし、エアコン、照明器具等の破損対策とした（強度行動障害児対策）。
 - ⑤防火避難上の配慮として構造を準耐火構造とした。
 - ⑥エアコンは、破損対策として、天井埋め込み型とした（強度行動障害児対策）。
 - ⑦照明器具は破損対策として埋め込み型を基本として、避難誘導灯など、露出するものについてはガード付きとする（強度行動障害児対策）。
 - ⑧自傷行為対策としてサッシの室内側は強化ガラスを採用する（強度行動障害児対策）。
 - ⑨海上自衛隊下総基地飛行場の北側に位置し、発着は頻繁でないが念のため、防音対策としてサッシはペアガラスとした。また、居室の窓はシャッター付きとした（水圧解除機構付きとし、火災時には、消防隊員が容易に侵入できるようにした。強度行動障害児対策）。
 - ⑩事務所から登下校、園庭での行動が確認しやすい配置とした。

4 職員配置について

1. 職員募集については、大学、専門学校、リクナビ、ハローワークで募集を考えている。
2. また、既存事業所から児童支援員（経験年数4年）、保育士（経験年数10年）、職業指導員（経験年数2年）計3名の職員を移動予定である。
3. 職員研修については、他法人の同種事業所（桐友学園等）へ出向き実習を計画している。また、以下のような虐待・権利擁護または、児童入所に関する研修会等に積極的に参加する。
 - 強度行動障害支援者養成研修（生活サポート主催）
 - 障害者権利擁護研修（千葉県、柏市等主催）
 - 虐待・権利擁護研修会、発達障害・障害児入所に関する研修会（千葉県 知的障害者福祉協会、日本知的障害者福祉協会、千葉県社会福祉協議会等主催）
4. 職員の指導育成については、外部講師（伊集院昭彦氏他）を交え、人材育成を施設の健全な運営及びサービスの質の向上のための取り組みとして位置付け、職員のやりがいや仕事を通じた成長の実現を後押しするため、長期的な職務の道や展望に沿った人材育成を行う。

4 評価点数

- ・審査内容ごとの点数は、外部有識者による評価点数の平均点を掲載。
- ・合計点数は、審査内容ごとの点数の合計。
- ・過半数の外部有識者等が①「事業主体の適格性の審査」又は②「事業主体の適格性の審査、その他項目の合計」のいずれかで基準点（①30点、②106点）を下回る評点を計上し、選定委員会においてその評点が妥当であると判断した事業者は設置候補者として選定しない。本件についていずれも該当なし。

【事業主体の適格性の審査】

- ・「3点」を標準とし、優れているものには加点、標準に満たないものには減点、各項目とも5点満点。

選定基準	審査項目	審査内容	平均	配点
事業主体の適格性があるか	法人の施設の運営実績	1 障害児入所施設又は児童養護施設又は障害者支援施設等の運営実績から、開設する施設を良好に管理運営できるか。	3.3	5
		2 過去の監査等の指摘に対する対応は適切に行われているか。	4.0	5
	安定的な運営が可能となる財政的基盤（建設地の状況）	3 法人の財務状況は健全か。	4.1	5
		4 管理運営経費が適切に計上され、経費率は妥当なものになっているか。	3.7	5
		5 建設用地を所有しているか、国又は地方公共団体から無償貸与を受ける見込みがあるか。	4.0	5
		6 土地の各種法令にかかる規制があるか。また、規制がある場合、許可等の見込みはあるか。	3.7	5
	収支計画の内容、適格性及び実現の可能性	7 収入、支出の積算と事業計画の整合性は図られているか。	3.6	5
		8 収支計画の実現性はあるか。	3.7	5
	施設の設置目的を踏まえた運営方針	9 希望理由は適切か	3.3	5
		10 児童の療育に関する考え方は適切に説明されているか。	2.4	5
①小計			35.9	50

【その他項目の審査】

・配点が「3点」の場合は「2点」、「5点」の場合は「3点」を標準とし、優れているものには加点、標準に満たないものには減点

選定基準	審査項目	審査内容	平均	配点
事業計画の内容が児童の発育を促すことができるものであるか	施設運営の見通し及び関係機関等との連携の考え方	11 事業の長期的な展望に対する考え方が適切に説明されているか。	3.1	5
		12 経営理念やコンプライアンスの取組等、経営モラルは適切に守られているか。	3.4	5
		13 保護者や児童相談所との連携に関する基本的な考え方は適切か。	3.7	5
		14 特別支援学校、小中学校、地域住民、市町村、医療機関等、関係機関との連携に関する基本的な考え方は適切か。	3.4	5
		15 施設整備・運営の両面において児童の発育のための創意工夫があるか。	2.9	5
事業計画の内容が児童の権利擁護・安全確保と連動したものであるか	児童の権利擁護と安全確保に関する取組	16 児童の権利擁護に関する基本的な考え方は適切か。具体的計画（研修、虐待防止体制）は立てられているか。	2.7	5
		17 児童の意思決定の支援に関する基本的な考え方は適切か。児童の関心や好みを汲み取り支援に反映させるための具体的計画は立てられているか。	2.1	3
		18 苦情解決の体制、苦情解決第三者委員との連携に係る具体的計画は立てられているか。福祉サービス第三者評価機関による評価の活用を計画しているか。	1.9	3
		19 職員間の情報共有や、上司への連絡・報告が適切に行われる計画となっているか。	1.9	3
		20 事故防止、ヒヤリハット対策等の体制に係る計画は適切に立てられているか。	1.7	3
		21 感染症対策、防災等危機管理の体制に係る計画は適切に立てられているか。	2.0	3

事業計画の内容が支援の質を確保することができるものであるか	支援の質の向上を図るための具体的手段及び期待される効果	22 児童発達支援計画の立案・実施の体制に係る計画は適切に立てられているか。	2.9	5
		23 児童の家庭復帰を含む地域移行等への取組に関する基本的な考え方は適切か。具体的計画は立てられているか。	3.0	5
		24 児童のサービスから成人のサービスへ円滑に移行するための具体的計画は立てられているか。	2.3	3
		25 (強度) 行動障害のある児童の生活能力の向上、就労や社会との交流等に向けた支援内容が適切に計画されているか。	2.7	5
		26 幼児や医療的ケアを要する児童の生活能力の向上、就労や社会との交流等に向けた支援内容が適切に計画されているか。	1.7	3
		27 被虐待児童等、心理的ケアを要する児童の生活能力の向上、就労や社会との交流等に向けた支援内容が適切に計画されているか。	2.9	5
事業計画書に沿った療育を安定して行うために必要な能力を有しているか	安定的な運営が可能となる人材状況	28 職員体制及び職員配置の考え方は適切か。	2.7	5
		29 職員採用及び職員確保の見込みは確実か。	2.0	3
		30 開設前の職員の研修計画は十分か。具体的計画は立てられているか。	1.9	3
		31 開設後の職員の研修計画は十分か。具体的計画は立てられているか。	1.6	3
		32 開設後の職員の指導育成、支援の方策はあるか。具体的計画は立てられているか。	1.7	3
児童に安全な生活を提供できる立地・施設整備を予定しているか	立地の状況（予定地の周辺環境を含む）	33 災害上の危険区域等ではなく、地域生活に習熟でき、家庭的で安全な場所か。	2.3	3
		34 公共交通機関を利用しやすい場所か。	2.1	3
		35 特別支援学校、地元小中学校からの距離は問題ないか。	2.3	3
		36 各種医療機関からの距離は問題ないか。	2.3	3
		37 施設建設について周辺住民の理解は得られているか。	2.4	3

施設整備の状況	38 児童の遊び場等が確保できるだけの十分な広さがあるか。	1.9	3
	39 効果的な支援が見込まれる設計になっているか。	1.9	3
	40 (強度) 行動障害のある児童に対応できる設計になっているか。	3.1	5
	41 小規模によるケアを効果的に実施できる設計になっているか。	2.1	3
	42 夜間の支援体制について、構造及び人的配置から児童の安全・安心が十分に確保されているか。	2.0	3
小 計		76.6	120
②合 計		112.4	170

5 今後の予定

施設整備に係る国庫補助金の申請や福祉型障害児入所施設の指定等の手続きを経て、平成30年4月開所を予定している。

(参考)

1 応募団体（社会福祉法人高柳福祉会）の概要

- (1) 名称 社会福祉法人 高柳福祉会
(2) 設立年月日 昭和40年10月6日
(3) 所在地 柏市高柳668-1
(4) 代表者 理事長 伊藤 茂良
(5) 運営施設・事業所一覧

名称	所在地	種別・定員	設置 時期
わかたけ社会センター	千葉県柏市高柳 668-1	就労移行・ 就労継続B型 20	H7. 3
たけのこ（主事業所）	千葉県柏市高柳 1478-5	就労継続B型・ 生活介護 20	H23. 4
ばんぶーはうす（従事業所）	千葉県柏市藤ヶ谷 1793-14	生活介護 20	H28. 4
わかたけホーム	千葉県柏市高柳 1478-18	共同生活援助 44	H20. 4
わかたけホーム短期入所	千葉県柏市 1621-15	短期入所 3	H26. 4
わかたけサポート	千葉県柏市 668-1	障害児・一般・ 特定相談支援	H23. 12
わかたけ介護	千葉県松戸市六実 4-10-3	居宅介護・ 重度訪問介護	H25. 4
咲保育園	千葉県柏市大井 1187-1	保育所 90	H26. 4
咲さく良保育園	千葉県柏市高柳 1624-431 街区 2	保育所 90	H28. 4

2 選定委員会

委員長	川嶋 博之	千葉県健康福祉部次長
委員	藤田 巖	千葉県健康福祉部健康福祉政策課長
〃	神部 眞一	千葉県健康福祉部健康福祉指導課長
〃	根本 正一	千葉県健康福祉部児童家庭課長
〃	古屋 勝史	千葉県健康福祉部障害福祉課長

3 外部有識者等

大屋 滋	千葉県袖ヶ浦福祉センター見直し進捗管理委員会委員 千葉県自閉症協会 会長、旭中央病院脳神経外科部長
新福 麻由美	千葉県知的障害者福祉協会児童発達支援部会部会長 福祉型障害児入所施設桐友学園施設長
田口 敏子	千葉県手をつなぐ育成会役員
小野寺 浩一	日本公認会計士協会千葉会会員
奥野 智禎	千葉県柏市児童相談所長
佐々木 亮夫	千葉県立富里特別支援学校校長
古屋 勝史	千葉県健康福祉部障害福祉課長

**福祉型障害児入所施設設置候補者選定の意見聴取会での
主な委員意見に対する対応の概要**

委員意見等	対 応
○子どもの発達について理解向上が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者研修等を受講することにより子どもの発達の理解に努める。 ・児童相談所の方針を確認し、相談支援事業所の下に、本人及び家族の意向を反映し児童発達支援管理責任者とともに計画を立て実行する。
○行動障害について理解向上が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・（強度）行動障害を理解するため、県が主催する強度行動障害のある方の支援者に対する研修を受講予定。 ・（強度）行動障害の症状の安定を図るために職員が本人の生活パターンを把握し、少なくとも3ヶ月に1回は児童発達支援管理者と利用者の状況を確認し支援内容の見直し適切な支援を行う。 対応できない困難事例が発生した場合のためスーパーバイザー（SV）として民間施設経験のある養育園元施設長を配置する。
○開設前の職員の研修について具体的な研修計画を立てる必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者研修を既に1名が研修を終え、今年度は1名、来年度は1名の参加（予定）。 ・平成29年度は各事業所のサビ管による県内障害児入所施設の見学を実施し、配置転換による職員は開所前に一人10日間程度の実習を県内障害児入所施設等で実施する。
○開設後の職員の研修について具体的な研修計画を立てる必要がある。	<p>① 施設内研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新卒職員は接遇等の研修の他、施設職員として必要なスキル習得のための研修を行う。 ・法人内の研修委員会の計画により虐待・権利擁護等の研修をする。 <p>② 施設外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員配置を工夫するなど、職員全員が施設外研修に参加できるように努める。 ・千葉県知的障害者福祉協会・生活サポート・千葉県社会福祉協議会・行政等の主催する（虐待防止及び身体拘束廃止研修、強度行動障害支援要請研修、障害者虐待防止・権利擁護研修等）研修会に年間一人1回は参加する。
○児童の遊び場等を確保するため、個室を減らしてでも共用スペースの拡大を再検討されたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・県内施設を見学した結果、個室にすることにより生活の安定を考え個室とした。 ・遊びの提供については、近隣の社会的資源（手賀沼遊歩道・児童公園等）を活用したい。
○効果的な支援の実施のため、個室を減らしてでも共用スペースの拡大を再検討されたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット型を考え、各ユニットにキッチンを配置した結果共有スペースが現在の広さになった。 ・将来的に隣接地を購入し共有スペース、遊び場について考慮したい。

委員意見等	対 応
○権利擁護について詳しい説明が欲しい。	<p>現在、当法人内には、虐待防止委員会を設置し、定期的を開催されている。また必要に応じて臨時開催もある。</p> <p>今年の議題は</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者虐待防止法の理解と対応 ② チェックシートの利用について ③ 虐待防止委員会についての開催時期について等 <p>虐待防止委員会は各事業所より1名と家族会から1名計5名による。</p> <p>なお、障害児入所施設開所後1名代表を委員会に参加する予定。</p>
○火災時の避難誘導の体制はどうするのか。	<p>・消防署の指導の下、避難訓練等を定期的に行い、疑問点があった場合は消防署と協議をする。</p>
○窓は、防犯、防災上どうするのか。	<p>・海上自衛隊下総基地飛行場の近郊に位置しているため、防音対策としてサッシはペアガラスとした。</p> <p>・防犯については、窓からの利用者の夜間の外出防止や外部からの侵入を考慮し、居室の窓はシャッター付きとした。</p> <p>・防災については、構造上、利用者が窓から避難することは難しいが火災時等は職員が避難誘導を行い、玄関、非常口から避難する。</p> <p>シャッターについては、水圧解除機構付きとし火災時には消防隊員が容易に侵入できるようにした。</p>